

ひらいた門

見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。 黙示録 3 : 8

VOL.02-02 NO.011 2010年02月

チャーチ・オブ・ゴッド

川崎南部キリスト教会

〒210-0025 川崎区下並木66

TEL&FAX 044-233-3648

Eメール:nanbu-kyokai@nifty.com

URL:<http://homepage2.nifty.com/nanbukyokai/>

「132分の81」

橋本幸夫

「ひとりでも滅びることを望まず」

(Ⅱペテロ3:9)

この数字は何でしょう。エッ？ 阪神タイガースの勝ち数？そんな、そんな。このくらい勝てれば優勝しますヨ！

どうせいうなら負け数と言った方が正解に近いですね。なんていやなことを言わせるんでしょう。

これは主イエスが地上でなされた伝道をめぐる数字です。福音書には主がなされた伝道記事が大小132回出てきます。その中で個人伝道、言いかえれば、ひとりの人との出会いの中でなされた例が81回にのぼるというのです。

かなりの確率で個に対する情熱を傾けられた主イエスの姿を見るではありませんか。

そういえば、ニコデモ、サマリヤの女、さらに富める青年、ゲラサ人で墓場を住み家としていたレギオンと自称した人など、思い悩む個が浮かんできます。

多くの人々に向かって福音の種を広く豊かに蒔きつつも、この1人に深く沈潜し

ていく面を伝道は持つのではないのでしょうか。

かつて朝日新聞の〈歌壇〉にこういう歌が選ばれ掲載されていました。

幾人か去りまた来るらん教会の
床磨き生く力尽くまで

選者の言葉がこう付けられていました。

〈一体、何人が神にすがろうとしてこの教会を訪れて来、やがてまた立ち去ったことだろう。そのような一生を自分はひたすら床を磨きながら働いてきた。この作者は貧しい教会の牧師の妻か〉。

ひとりの人が救われるために黙々と祈り励む人によって伝道戦線は担われ、教会は形成されてきたのです。黙々とコツコツとひとりの魂の救いのためにみことばを宣べ伝え、教会に仕え続けた先人の戦いを継承せねばなりません。

ある方はこんな事を言っています。

〈五千人に給食されたイエスは、またひとりを五千回愛し給うた〉。多くの人に向き合いつつ個へと迫りたいのです。

初期のキリスト教が非常に早く、燎原の火のごとく広がっていった理由の一つは個に対する伝道にあると言えましょう。

「ひとりでも滅びることを望ま」ない主の心を心とさせていただきましょう。